

生きもの

DE

すわ

文・写真・絵 生きもの集め隊 隊長 平野 邦好

令和4年7月15日発行

池を見張るトンボ

夏の間、ビオトープの池に行くといつも出会えるトンボがいます。

目玉が黒っぽく身体が濃い水色をした

オオシオカラトンボのオスです。オオシオカラトンボのオスは、水辺に縄張りを持ち、メスが現れるのを待っています。また、他のオスが来たら攻撃をして追い払います。メスが現れると交尾をして、縄張りの水辺で卵を産ませます。メスは空中で静止しながら尾を水につけて産卵します。その間、オスはメスの周りを飛んで見張ります。

このトンボのメスの身体は濃い黄色をしています。だから、知らないで別の種類のトンボと誤ってしまいます。また、羽化したばかりのこのトンボのオスは、メスと同じように黄色の体色をしています。これは成熟したオスの縄張りの中での羽化なので、攻撃され殺されるのを防ぐためと思われます。羽化したオスは身体や羽根がかたく、しっかりするまで水辺から離れたところでしばらく生活します。



①



②



③



④



⑤



⑥

①池全体を見渡せる場所に止まって、監視をするオオシオカラトンボのオス。

②交尾をするオオシオカラトンボ。黄色い方がメス。

③空中で停止しながら尾を水にぶつけて産卵するメス。

④羽化したオス。メスのように身体が黄色。○の部分の出っ張りでメスと区別できる。

⑤オオシオカラトンボのヤゴ。

⑥ヤゴが羽化しやすいようにヤゴタワーを設置したところ、同じ場所を登ってきて次々と羽化（日にちは異なる）した結果、写真のようになった。場所は広いのになぜだろう？



左の写真のトンボは、オオシオカラトンボに似ていますが、目の色が緑っぽく、身体の色が塩をふいたような薄い水色のシオカラトンボのオスです。メスは麦わらのような薄い黄色をしているところから、ムギワラトンボとも呼ばれます。

私の子どもの頃は、オオシオカラトンボは見かけなくて、このシオカラトンボばかりでした。

田畑があるような広々とした開けた場所では、シオカラトンボ、街中ではオオシオカラトンボが多いようです。

因みにオオシオカラトンボのメスのことをオオムギワラトンボとは呼びません。

チョウを呼ぶために

コオニユリ

ビオトープ作りは、様々な環境が混在し多様な生物が生存する里山の環境がお手本です。そのために生き物を呼び寄せられる様々な植物を植えています。

コオニユリは花が下向きに咲き、花びらも反り返っているの、大型の蝶が蜜を吸うためにはおしべやめしべにぶら下がって、そこから口のストローを伸ばして苦労して蜜を吸うこととなります。そのときに蝶の身体中に花粉が付き、めしべへと運ばれます。蜜だけを盗まれないような造りになっています。

コオニユリの球根は園芸店では高いのですが、お正月のおせちに使われる百合根なら安く手に入ることを阿部優子前諏訪小学校校長先生に教えていただきました。

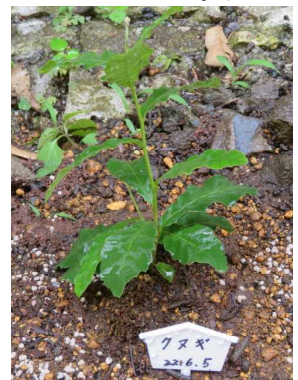


虫や鳥を呼ぶために

クヌギ

里山を代表する樹木と言えば、クヌギです。クヌギの樹木には鳥や小動物が集まったり、幹から出る樹液にカブトムシやクワガタムシやカナブンなどが集まったりします。

落葉樹なので落ち葉が堆肥になったり、小動物の隠れ家や食料になったりもします。まん丸のドングリも子どもたちに人気があります。しかし、身の回りにクヌギの木がほとんどなく、昨年度の美化委員さんにクヌギのドングリを見せても誰も知りませんでした。そこで、拾ってきたクヌギドングリをポットに蒔いて芽を出させ、ビオトープに定植しました。大きくなるまでには何年もかかりますが、諏訪小学校にはクヌギの木があり、いろいろな生き物がいる学校になったら良いなと思っています。



クヌギの実→
中央にクヌギの実に入っているゾウムシの幼虫がいる。